

---

# PROMA C DevNavi

## Ver. 1.3 新機能のご紹介

---

2009/04/03

エスエムジー株式会社

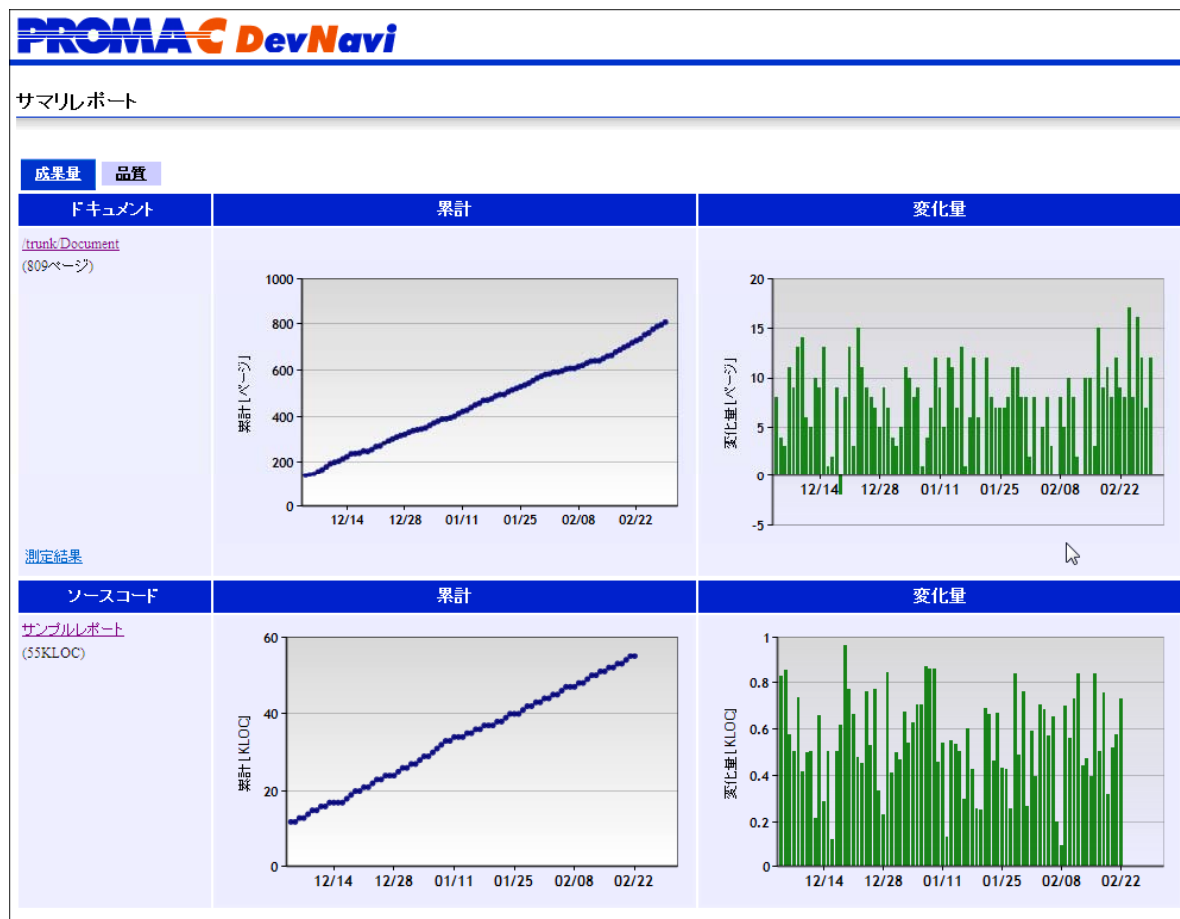
## ■ 以下の新機能追加／機能強化を行いました。

1. 成果量測定機能(★新機能★)
2. Tracの機能強化
  - ① チケットインポート機能
  - ② チケット登録時のユーザー名オートコンプリート機能
  - ③ チケットのワークフローカスタマイズ機能
  - ④ チケット一覧エクスポート時の文字コード指定機能
3. Subversionの機能強化
  - ① ロック対象ファイル拡張子指定のカスタマイズ機能

# 1. 成果量測定機能(1)

PROMA-C DevNaviのSubversionに成果物を登録／変更するだけで、成果物の規模を自動で測定します。

これにより、成果物規模に基づいて、進捗をリアルタイムに把握することが可能です。



- ・ドキュメントのページ数 (Word / Excel)
- ・ソースコードのライン数 (Java, C / C++ / C# 等)

を自動で測定し、時系列で累計／変化量をグラフ表示します。

成果物規模がリアルタイムで把握できるため、例えば、開発進捗が進んでいない状況がすぐに分かたり、試験工程で大規模なソース変更があった場合に試験項目の追加を指示する、といった管理が可能になります。

# 1. 成果量測定機能(2)

成果量を測定するルートディレクトリを指定すると、その配下のディレクトリ全ての成果量を測定します。

測定結果は、ディレクトリごとに表示することができます。

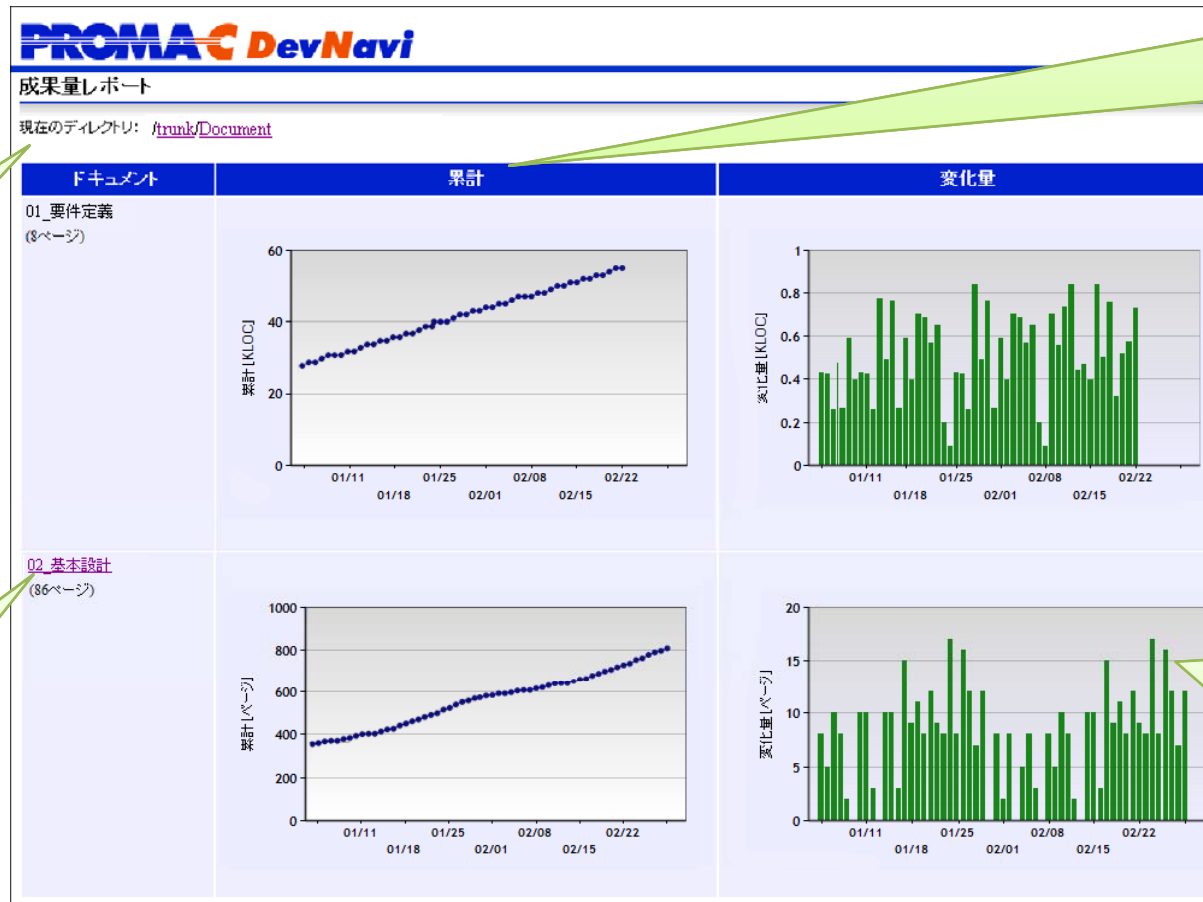
グラフの表示期間は、1週間／2週間／1ヶ月／2ヶ月／3ヶ月から選択可能です。

ドキュメント／ソースコードの  
成果量累計を表示します。

今、全体でどれだけの規模が  
開発されているのかが分かります。

成果量を表示して  
いるディレクトリを  
示しています。

ディレクトリ名をク  
リックすると、下位  
ディレクトリの成果  
量を表示します。



ドキュメント／ソースコードの  
日々の変化量が分かります。

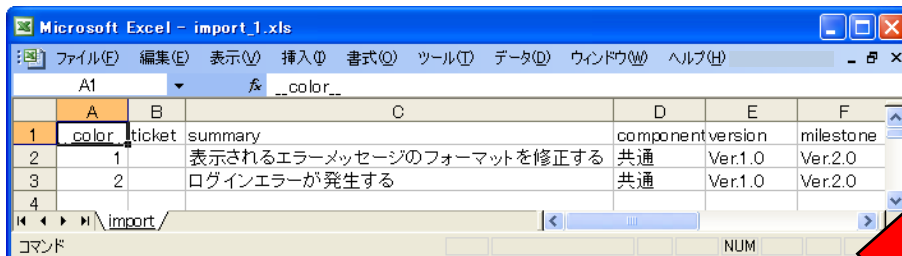
例えば、大規模な変更が加わ  
った時や、データ削除が行わ  
れたことも、一目で分かります。

## 2. Tracの機能強化(1)

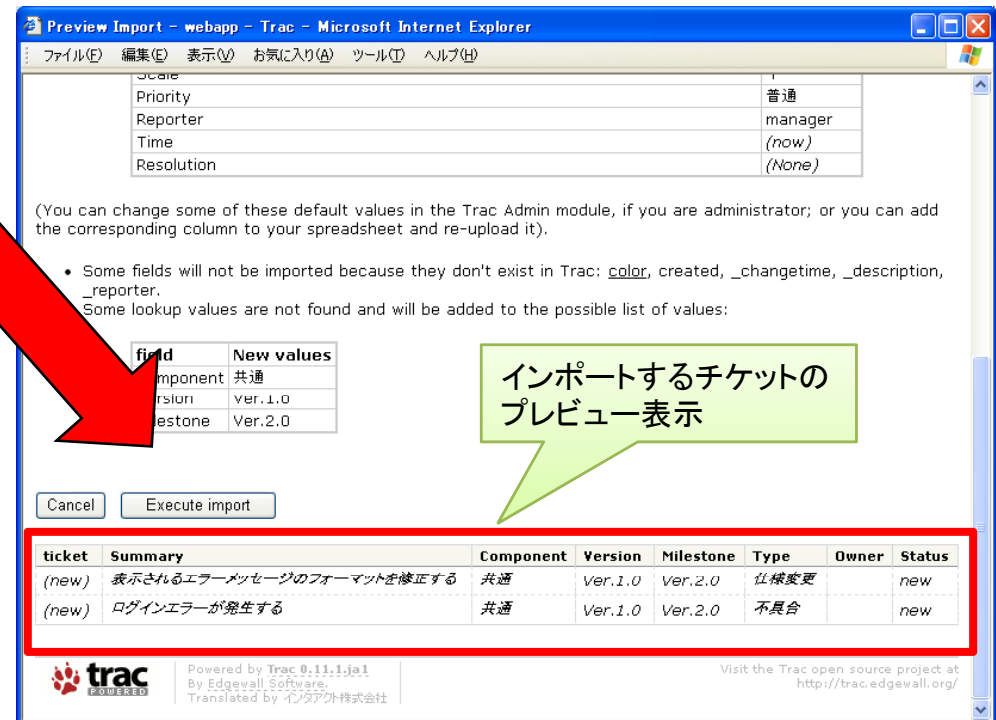
### ① チケットインポート機能

Excelかカンマ区切りファイル(CSV)から、チケットをTracに一括でインポートすることができます。

一度に大量件数のチケットを登録したい場合に、登録するチケット内容一覧をExcelで作成してこのインポート機能を利用すれば、簡単にチケットを登録することができます。



A	B	C	D	E	F
1	color	ticket summary	component	version	milestone
2	1	表示されるエラーメッセージのフォーマットを修正する	共通	Ver.1.0	Ver.2.0
3	2	ログインエラーが発生する	共通	Ver.1.0	Ver.2.0



(You can change some of these default values in the Trac Admin module, if you are administrator; or you can add the corresponding column to your spreadsheet and re-upload it).

- Some fields will not be imported because they don't exist in Trac: `color`, `created`, `_changetime`, `_description`, `_reporter`.
- Some lookup values are not found and will be added to the possible list of values:

field	New values
component	共通
version	Ver.1.0
milestone	Ver.2.0

インポートするチケットのプレビュー表示

ticket	Summary	Component	Version	Milestone	Type	Owner	Status
(new)	表示されるエラーメッセージのフォーマットを修正する	共通	Ver.1.0	Ver.2.0	仕様変更		new
(new)	ログインエラーが発生する	共通	Ver.1.0	Ver.2.0	不具合		new

Cancel Execute import

Powered by Trac 0.11.1.ja1  
By Edgewall Software.  
Translated by インテック株式会社

Visit the Trac open source project at <http://trac.edgewall.org/>

これまでExcelで不具合や要件などの管理を行っていた場合でも、簡単にTracにデータをインポートできるため、Tracによる管理に移行することが容易です。

## 2. Tracの機能強化(2)

### ② チケット登録時のユーザー名オートコンプリート機能

これまで、チケットの担当者入力時には、ユーザー名を手入力する必要がありましたが、オートコンプリート機能により、プロジェクトメンバーの一覧より選択可能になりました。また、文字列入力による絞込み検索も可能です。






新規チケットの登録

属性

概要:

報告者: manager

説明:  autolink

Normal **B** **I** **U** **TT**     

【1.現象】

【2.再現手順】

【3.期待結果】

【4.原因】

担当者:

優先度: user1 <ユーザ1>

コンポーネント: user2 <ユーザ2>

キーワード:

関係者:

オートコンプリートで選択できるようになった入力項目は、以下の項目です。

- ・報告者
- ・担当者
- ・関係者

チケットを登録する時に、「担当者」欄にカーソルを置くと、プロジェクトメンバー一覧が表示されます。

「担当者」に割り当てるプロジェクトメンバーを選択することができます。

## 2. Tracの機能強化(3)

### ③ チケットのワークフローカスタマイズ機能

Tracでは、不具合管理や要件管理を行う上でチケットの状態遷移を規定します。これをワークフローと呼びます。

例えば、プログラムの不具合を発見した時には、

「発生した不具合のチケットを登録」→「担当者の割り当て」→「修正完了」

のように基本的な不具合管理の状態遷移がありますが、その遷移を規定することで、作業の漏れを防いだり効率化したりすることが可能です。

PROMA-C DevNaviのTracでは、このチケットのワークフローを、管理画面上からGUIで簡単にカスタマイズできるようになりました。

操作	表示名	順序	次のステータス
leave	変更しない	*	<--
accept	着手する	1	accepted <--
reassign	担当者変更	2	assigned <--
reopen	差し戻す	3	reopened <--
resolve	解決にする	4	resolved <--
admit	承認する	6	closed <--

ワークフロー設定

Grid Text

操作 表示名 順序 次のステータス

leave 変更しない \* <--

accept 着手する 1 accepted <--

reassign 担当者変更 2 assigned <--

reopen 差し戻す 3 reopened <--

resolve 解決にする 4 resolved <--

admit 承認する 6 closed <--

操作を編集する場合は、「追加」「変更」「削除」ボタンをしてください。  
ステータスを編集する場合は、「ステータスの編集」ボタンを押下してください。

追加 変更 削除 ステータスの編集

Edit Record

操作: accept

表示名: 着手する

処理: 自分を担当者に設定

権限: TICKET\_MODIFY

順序: 2

次のステータス: accepted

new:

assigned:

accepted:

reopened:

closed:

resolved:

tested:

Submit Cancel

不具合管理などを含めた開発のフローは、通常、会社ごとに異なります。

PROMA-C DevNaviのTracでは、管理画面上から簡単にワークフローをカスタマイズして、自社の開発フローに合わせることができます。

※ PROMA-C DevNaviでは、以下のワークフローを標準でご提供しています。

「チケット登録」→「着手する」→「解決にする」→「確認完了にする」→「承認する」

## 2. Tracの機能強化(4)

### ④ チケット一覧エクスポート時の文字コード指定機能

Tracには、チケットの一覧をファイルにエクスポートする機能があります。

通常のTracは、エクスポート時の文字コードはUTF-8となっており、文字コードの変更はできません。そのため、エクスポートしたCSVファイルは、一度文字コードを変更しないとExcelで開くことができませんでした。

PROMA-C DevNaviのTracでは、管理画面上からエクスポートする文字コードを指定できるようになりました。



ファイルへエクスポートする際の文字コードを、管理画面で指定します。

PROMA-C DevNaviのTracは、エクスポートしたチケット一覧をExcelですぐに参照できるよう、デフォルト文字コードはcp932としています。

また、オフショア開発などにより国際化対応が必要な場合には、文字コードをUTF-8に設定することで、エクスポートが可能になります。

# 3. Subversionの機能強化

## ① ロック対象ファイル拡張子指定のカスタマイズ機能

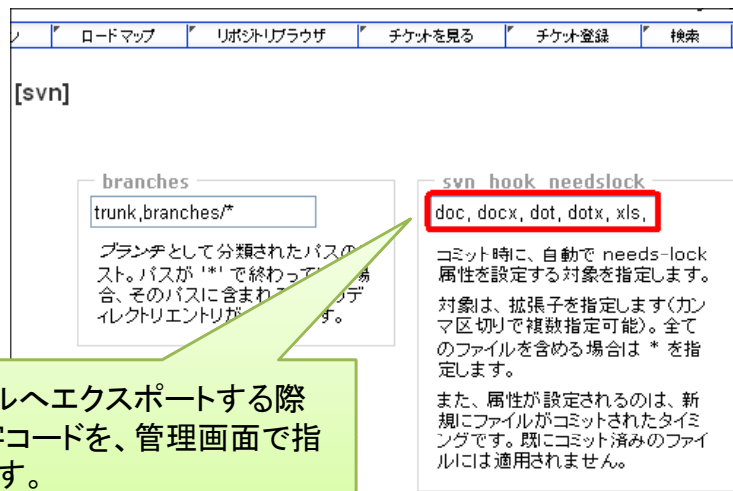
バージョン管理の考え方として、「ロックモデル」と「マージモデル」があります。

「ロックモデル」・・・バージョン管理されているファイルに対して、編集する人がロックを取得して編集し、編集が終わったらコミットしてロックを開放するというモデルです。ロックされている間は他の人はそのファイルをコミットできないため、他の人とファイルの修正が衝突することがありません。

「マージモデル」・・・複数のユーザーが並行してファイルを修正するモデルです。ファイル修正が他の人と衝突する可能性はありますが、他の人によってファイルがロックされている間に編集作業ができない、という時間的ロスはありません。

通常のSubversionは「マージモデル」を採用していますが、PROMA-C DevNaviのSubversionは、「ロックモデル」も利用できるようになっています。また、ファイルの種類(拡張子)ごとに「ロックモデル」か「マージモデル」を指定することが可能です。

例えば、「ドキュメント(Word/Excelなど)はロックモデル」「ソースコードはマージモデル」といった運用も可能です。



PROMA-C DevNaviのデフォルト設定では、利便性を優先するためにソースファイルは「マージモデル」設定となっています。

ですが、利便性より、ファイル修正の衝突によるデグレードの危険回避を優先するために、ソースファイルも「ロックモデル」で運用する、ということも可能です。



ありがとうございました。

ご不明な点、ご要望については、下記までご連絡ください。

### 連絡先

エスエムジー株式会社 PROMA-Cサービス担当

TEL:045-476-3171 E-Mail: [proma-c@smg.co.jp](mailto:proma-c@smg.co.jp)